

名古屋市「空見地区大規模展示場」についての愛知県の認識

名古屋市の空見の展示場構想についての経緯は以下のとおり。平成 28 年 2 月 2 日に問題点を指摘して以降、1 年以上、問題点の指摘に対して市からのリアクションはない。

- 平成 28 年 2 月 2 日 知事から市長に対して空見の問題点を口頭で指摘
- 平成 28 年 2 月 3 日 市空見の構想を発表
- 平成 29 年 2 月 15 日 市 29 年度予算案発表(空見調査費計上)
知事会見(「空見の調査予算には賛同しない」)
- 平成 29 年 3 月 7 日 市会本会議で事実と異なる答弁
- 平成 29 年 3 月 14 日 市から県の問題認識について確認依頼

空見地区には様々な問題点があり、大規模展示場を整備する適地ではないと認識。

【場所について】

- ・地主である東邦ガスは、県と名古屋市が一致しない限り、土地は貸さないとしている。県は、市の構想が実現できないものと認識しており賛同しない。
- ・東邦ガスの高圧ガス導管、研修・研究施設等があり、移設する必要がある。移設するには、多額の費用が必要となる。
- ・敷地は、約 10 万㎡に満たず、稼働している鉄塔、圧力調整器(ガバナー)があるため不整形となる。また、建ぺい率、駐車場整備、共用スペース等を確保する必要があることなどを勘案すると展示面積 3~4 万㎡程度の施設しか建設できない。
- ・土壌汚染について、平成 16 年、18 年の東邦ガスの自主調査は、施設建設を前提とした調査ではなく、展示場予定地の部分はほとんどカバーしていない。また、平成 24 年まで稼働していた汚染土壌処理プラントの跡地も調査していないため、展示場敷地の調査としては不十分である。また、平成 16 年度に見つかった汚染もすべて除去されていない。このため、今後、土壌汚染対策法に基づく調査と必要な措置が必要となり、豊洲の例をあげるまでもなく相当の時間と費用が必要となる。

【交通アクセスについて】

- ・あおなみ線の新駅、幹線道路(6車線)をまたぐ連絡デッキの整備が必要となり、整備に相当の時間と経費がかかる。
- ・金城ふ頭に至る道路は、大型トラックが頻繁に行き来し、現状でも、交通渋滞が頻発。高速道路まで渋滞の影響がでている。4月1日にはレゴランドが開業。周辺道路は相当に混雑する恐れがある。このため港湾事業者、物流事業者の事業活動を大きく阻害。産業経済活動に大きな障害となる懸念。

【港湾の用途規制について】

- ・港湾計画・都市計画の規制があり、港湾計画の変更(分区の変更など)が必要だが、名古屋港管理組合は、愛知県、名古屋市の二者で構成する一部事務組合であり、事業を進める上では両者の合意が大前提。空見の構想は合意ができないため、港湾計画の変更手続に入ることはできない。

【事業性について】

- ・名古屋市の稲永ふ頭の調査における、総事業費の見込みは1,616億円。
- ・空見ふ頭についても、新駅、デッキ整備などの周辺整備、東邦ガス既存施設の移転・補償、土壌汚染対策など、莫大な費用や時間が必要。事業性に大きな疑問。

以上を踏まえた愛知県の認識

これらの問題点をすべてクリアできないため、県としては、空見地区での展示場構想は、事業可能性が無く、具体化できないと考えている。従って、賛同することはできない。